

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
32121	文学賞運営事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	2
32121	ことばのちからイベント事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	3
32121	俳句ポスト事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	4
44211	文化振興事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	5

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	文化振興	連絡先	948-6634	
部長等名	佐伯 文男	課等長名	石川 さおり	リーダー	富田 真次	担当	森貞 美里	木原 彩夏

1.事業概要【Plan】

事業名	文学賞運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託	
32121							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	○			
施策	選ばれる都市づくり		○	○			
主な取組	「ことば」文化の内外発信	根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	「ことば」文化の浸透						
目的・背景	近代俳句の父・正岡子規を生み、明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」に描いたまちという豊かな文学的土壌をいかし、本市の文化的イメージアップと市民文化の向上を図る。 平成元(1989)年の市制施行100周年を記念して創設。全国の多くの市が市制100周年を迎える中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けとなった。第20回は8,014点の作品応募があり、「ことばと文学のまち松山」を全国に発信している。						
対象・内容	・文学賞に関する事業の運営委託料を株式会社パシフィックボイスへ支出。 ・令和5年5月1日から令和5年9月30日まで作品を募集し、令和6年1月25日に審査結果発表・表彰式を行った。 ○審査員:田丸雅智、大原さやか、山戸結希 ○アンバサダー:白濱亜嵐 ○賞:大賞1名(賞金500千円)、佳作5名(賞金100千円)						

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費／財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度		主な経費 (千円) 【R5 決算】	文学賞運営業務委託料		17,380
予算 (千円)	事業費計	14,437	18,650	16,719			賞金	1,000	
	国費・県費								
	市債								
	その他								
	一般財源	14,437	18,650	16,719					
決算 (千円)	事業費計	14,217	19,055			主な取組 内容 【R5】	・パシフィックボイスへ文学賞の運営を委託し、作品募集、ワークショップ、審査、結果発表等を実施。 ・第20回記念事業として、特別対談や受賞作品への感想募集を行った。		
	国費・県費		1,650						
	市債								
	その他								
	一般財源	14,217	17,405						
	(執行率)	98%	102%						
人役	正規職員	0.7	0.7	0.7		特記事項	・負担金補助及び交付金に不足が生じたため文化振興事業から流用。		
	その他								
	合計	0.7	0.7	0.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	書き方ワークショップ開催数		目標	5	5	5	5	他の文学賞と比べて、多くの応募を受けており、現状を維持する。	
			実績	5	5				
	現状維持	回	達成率	100%	100%				
成果指標	作品の応募数		目標	7,000	7,100	8,100	8,200	第20回記念事業の実施や、SNS広告等の取組みにより、前年度より応募数は増加した。	
			実績	7,026	8,014				
	単年で増	点	達成率	100.4%	112.9%				
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。							
	理由	第20回記念事業の実施やSNS広告等の取組みにより、前年度(令和4年度)より多くの作品の応募があり、「ことばと文学のまち松山」を全国に発信できた。							
課題	例年、多くの応募があり、坊っちゃん文学賞の認知が広がってきたものと考えられるが、今後も応募数増加に向けた取組みを、委託業者と連携し行っていく必要がある。また、応募数だけに留まらず、坊っちゃん文学賞を通じ「文学のまち松山」のPRに務める必要がある。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も文学賞を継続して実施し、「文学のまち松山」を市内外にPRしていくため。

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	ことばのちから	連絡先	948-6952		
部長等名	佐伯 文男	課等長名	石川 さおり	リーダー	河野 博仁	担当	鎌田 めぐみ	吉井 亨	

1.事業概要【Plan】

事業名	ことばのちからイベント事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	5:補助金・負担金	
32121							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する						
施策	選ばれる都市づくり		○	○	○	○	
主な取組	「ことば」文化の内外発信	根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	「ことば」文化の浸透						
目的・背景	・正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文学的土壌を生かして、「ことば」をキーワードとした文化事業を展開し、「ことばを大切にすまち松山」を市内外に発信する。 ・2000年(平成12年)に、新たなまちの活性化を目的として、21世紀イベント事業をスタートし、21世紀イベント協議会が実施した「ことばのちから2001」が第6回ふるさとイベント大賞(平成14年)を受賞するなど取り組みが評価されたことから、引き続き「ことば」をキーワードとして事業を展開することとなった。						
対象・内容	・ことばのちから実行委員会へ負担金を支出し、“ことば”をまちに掲出する「街はことばのミュージアム」の実施や「響け!!言霊第16回“ことばのがっしょう”群読コンクール」を実施。 ・NPO法人俳句甲子園実行委員会へ負担金を支出し、第26回俳句甲子園を共催。						

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費／財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度		主な経費 (千円) 【R5 決算】	俳句甲子園開催負担金		21,000
予算 (千円)	事業費計	40,211	32,329	44,043			ことばのちからイベント 2023負担金		4,417
	国費・県費	17,853	13,078	13,078			いい、つばきの日記念イベント オン ライン句会ライブ業務委託		1,100
	市債								
	その他			2,250					
	一般財源	22,358	19,251	28,715					
決算 (千円)	事業費計	37,008	29,535			主な取組 内容 【R5】	・第26回俳句甲子園を共催。 ・「響け!!言霊 第16回“ことばのがっしょ う”群読コンクール」を実施。 ・いい、つばきの日記念イベントとして、 夏井いつき氏によるオンライン句会 ライブを開催。		
	国費・県費	17,269	12,708						
	市債								
	その他								
	一般財源	19,739	16,827						
	(執行率)	92%	91%						
人役	正規職員	2.6	2.6	2.6		特記 事項			
	その他	0.1	0.1	0.1					
	合計	2.7	2.7	2.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	俳句甲子園未参加県での出張講座実施数		目標	10	10	10	10	開催実績のない福井県にPR活動を行うことができたが、年度末であったことから年度内の出張講座の開催までには至らなかった。	
			実績	9	9				
	累計で増	都道府県	達成率	90.0%	90.0%				
成果指標	俳句甲子園への参加都道府県数		目標	47	47	47	47	未参加県での講座実施やPR活動が十分に行えなかったことが要因。	
			実績	45	45				
	累計で増	都道府県	達成率	95.7%	95.7%				
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	令和5年度には3県で対面での講座を開催することができた。 また、令和6年度の講座実施に向け、未参加県の一つである福井県でのPR活動を行った。							
課題	俳句甲子園の参加実績のない福井県及び佐賀県へ、今後も参加の呼びかけや出張講座を行う必要がある。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	未参加県を中心とした全国の高校に対し、出張講座の効果的なPRを行っていく。

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	ことばのちから	連絡先	948-6952	
部長等名	佐伯 文男	課等長名	石川 さおり	リーダー	河野 博仁	担当	吉井 亨	黒田 みさ

1.事業概要【Plan】

事業名	俳句ポスト事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	1:直営	
32121							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	－			
施策	選ばれる都市づくり		○	○			
主な取組	「ことば」文化の内外発信	根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	「ことば」文化の浸透						
目的・背景	俳句を楽しみ、俳句を愛するまちとして「俳都松山」の認知度を高め、かつ松山の俳句文化を全国に広めることを目的としている。より多くの方が俳句に親しみ、俳句の魅力、さらには松山の魅力を知ることができるようにする。						
対象・内容	松山を訪れた観光客や市内外の方に対して、投句受付や入選者発表をすることで、松山の俳句文化に親しんでもらい、俳都松山をPRする。 ①市内俳句ポスト…観光客や設置地域の市民に俳句に親しんでもらう。 ②県外・海外俳句ポスト…俳都松山の存在を知ってもらう。 ③俳句投稿サイト「俳句ポスト365」…誰でも、いつでも、どこからでも全国から気軽に投稿できるようにする。						

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費／財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度		主な経費(千円) 【R5 決算】	俳句ポスト365と市内電車俳句 ポストの運営管理委託料		4,466
予算 (千円)	事業費計	6,493	6,394	6,202			入選記念品や選句謝礼な どの報償費	俳句ポスターの広告料	500
	国費・県費	2,106	2,106	2,106					
	市債								
	その他								
	一般財源	4,387	4,288	4,096				342	
決算 (千円)	事業費計	5,875	5,798			主な取組 内容 【R5】	・俳句ポストの回収、投句データの打込み、 選句依頼、記念品と入選通知文の発送など を行った。 ・俳句投稿サイト「俳句ポスト365」の運営 業務を委託し、俳都松山のPRを行った。		
	国費・県費	2,208	2,106						
	市債								
	その他								
	一般財源	3,667	3,692						
	(執行率)	90%	91%						
人役	正規職員	0.2	0.2	0.2		特記 事項			
	その他	0.8	0.8	0.8					
	合計	1.0	1.0	1.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	俳句ポストの設置数		目標	113	113	113	113	松山市内に2か所、追加で設置したため、設置数が増加した。	
			実績	106	108				
	現状維持	箇所	達成率	93.8%	94.6%				
成果指標	俳句ポスト・俳句ポスト365の投句者数		目標	31,000	32,000	33,000	34,000	各地に設置している俳句ポストへの投句者数は観光客の回復と共に増加した。	
			実績	43,819	44,385				
	単年で増	人	達成率	141.4%	138.7%				
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	俳句ポストの設置数は目標値に到達していないが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、市内・県外に設置している俳句ポストの投句数・投句者数はともに大きく増加している。また、俳句ポスト365は自宅などから気軽に投稿できるため、新型コロナウイルスの影響があった中でも投句数・投句者数ともに増加し、現在も好調である。市内・県外設置の俳句ポストや俳句ポスト365を通して、多くの方が俳句に親しみ、俳句の魅力や松山の魅力を知ってもらうことができている。							
課題	路面電車の新型車両の入れ替えに伴い、旧型車両に設置している俳句ポストの設置数は今後減少する可能性があるため、新規で設置できる場所を検討する。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	俳句ポストの設置数、投句者数ともに増加傾向にあるため。

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	文化振興	連絡先	948-6634		
部長等名	佐伯 文男	課等長名	石川 さおり	リーダー	富田 真次	担当	大西 未起	森貞 美里	

1.事業概要【Plan】

事業名	文化振興事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	5:補助金・負担金	
44211							
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む		○	○			
施策	文化芸術の振興と活用		○	○			
主な取組	文化芸術活動の継承・推進及び支援	根拠法令	文化芸術基本法、松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実						
目的・背景	松山市文化芸術振興計画の3つの基本理念「文化芸術で市民の創造性や表現力の向上を目指す」「文化芸術で心豊かで活力ある地域社会の形成を目指す」「文化芸術で市民の誇りと絆を深め、世界や未来へつなぐ」のもと、各種事業を推進し、将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」を目指す。						
対象・内容	・松山市文化協会等に対して補助金を支出し、市内の文化芸術団体の発展と普及を図る。 ・松山市文化創造支援協議会に対して負担金を支出し、市民の創造性や表現力を向上させ、心豊かで活力ある地域社会の形成を図る。 ・まちなか文化活動補助金を支出し、市民や観光客がまちなかで気軽に文化芸術に触れられる機会を創出する。						

2. 事業実施【Do】

2. 事業実施【Do】		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費／財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度		主な 経費 (千円) 【R5 決算】	松山市文化協会補助金		17,745
予算 (千円)	事業費計	42,264	38,879	103,731			松山市文化創造支援協 議会負担金		12,086
	国費・県費	9,650	6,500	3,600					
	市債								
	その他								
	一般財源	32,614	32,379	100,131		まちなか文化活動補助金		2,317	
決算 (千円)	事業費計	41,590	35,886			主な 取組 内容 【R5】	・松山市文化協会等へ運営補助金を支出 し、文化芸術の振興を図った。 ・松山市文化創造支援協議会でワーク ショップやシンポジウムを実施した。 ・まちなかでの演奏会などの実施を支援 した。		
	国費・県費	9,662	6,043						
	市債								
	その他								
	一般財源	31,928	29,843						
	(執行率)	98%	92%						
人役	正規職員	2.8	2.8	2.8		特記 事項	・令和6年度に東京ガールズコレクション地方 創生プロジェクト誘致事業、若者文化賑 わい創出推進事業を計上		
	その他	0.1	0.1	0.1					
	合計	2.9	2.9	2.9					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和9年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	松山市文化協会による事業実施数		目標	9	9	8	9	目標通りの事業を実施することができており、現状を維持する。	
			実績	7	9				
	単年で増	件	達成率	77.8%	100%				
成果指標	松山市文化協会会員数		目標	251	251	251	251	会員の高齢化が進行し、団体内のメンバー減少や活動休止による減となっている。	
			実績	181	180				
	累計で増	団体	達成率	72.1%	71.7%				
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	新型コロナウイルスによる規制が緩和され、予定通りの事業を実施することができた一方で、会員の高齢化等により松山市文化協会の会員数が減少したため。							
課題	経済的な発展や社会の多様性が進む中で、文化芸術の振興にとどまらず、文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他関連各分野の施策と有機的な連携を図る必要がある。					今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	各団体への負担金や補助金、まちなか文化活動補助金を通して市民が文化芸術に触れられる機会の創出を継続して行っていく。